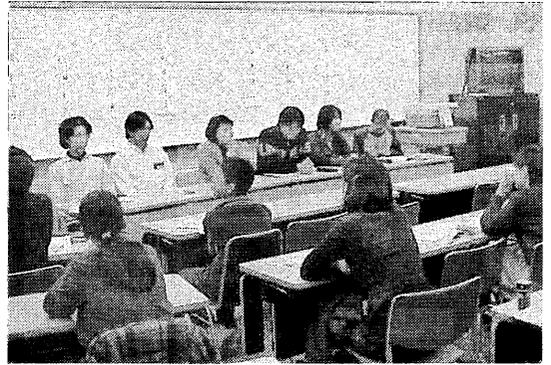


# 「喫茶シューレ」

—自分の居場所と不登校—

<企画運営団体：東京シューレ>

報告者 田中 健一さん 東京シューレ  
 報告者 信田 風馬さん 東京シューレ  
 報告者 石井 志昂さん 東京シューレ  
 報告者 渡辺 広史さん 東京シューレ  
 報告者 坂本 ゆいさん 東京シューレ  
 報告者 米田 有里さん 東京シューレ  
 司会 須永 祐慈さん シューレ大学



シンポジウムの報告者の皆さん

◇参加人数：31名（子ども、おとな、実行委員、シンポジスト含む）

## ◇1日のおおよその様子：

午前中は、東京シューレ会員によるシンポジウムと、来年日本で開催予定の「世界フリースクール大会」に向けて、今年イギリスで行なわれた同大会に参加してきた子どもたちによるビデオとスライドの上映会が行なわれました。

午後は、子どもたちによる喫茶サロン風に会場をセッティングし、4グループくらいに自然に分かれて、子どもも大人も混じっての自由なおしゃべりを通して、子ども主体の成長について考え合いました。「大人の都合であらゆることを見、考えてしまうけれど、子どもの問題と大人の問題を一緒にしないことが大事ね」という、あるお母さんの言葉が印象に残りました。

おしゃべり以外には、ゲームコーナーを設置。のべ6人くらいの子どものがテレビ画面に向かって対戦などを楽しみました。また子ども市を開き、東京シューレの子どもたちのラッピングした無農薬ローリエと、ホームエデュケーションで育てている小学年齢の女の子のきょうだいの手づくりピーズアクセサリーを販売。アクセサリーのほうは

本人たち自身でかわいらしいボードに色とりどりのネックレスなどを並べ、「用意してきた個数の3分の2くらいが売れたよ」とのことでした。



ゲームコーナーの様子

## 「喫茶シューレ」

### ◇午前中のシンポジウムの様子

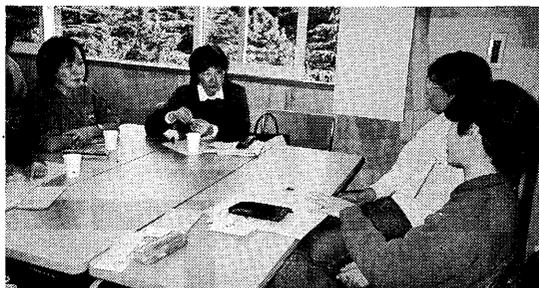
須永祐慈（司会・シューレ大学）：今日、ここに並んでいるみんなの通う東京シューレは、1985年に学校外の学び・交流の場としてフリースクールの草分け的に親たちが作り出してスタートし、今は200人の子どもたちが通っています。僕も今はシューレ大学にいますが、東京シューレには7年間通いました。ほかに、家庭を中心にやっている子が交流誌やインターネットでつながっているホームシューレ、宿泊型のログハウスシューレの活動などもあります。自由、自治、個の尊重を3つの柱にしている子ども主体の場で、この11月にはNPO法人の認証も得ました。

この分科会では、おもに不登校を経験した立場から、学校の外で考えたことの経験を踏まえて「子どもの権利」を考え、語り合いたいと思います。

田中健一（18歳）：11歳の頃から学校に行かなくなったのですが、僕が行かなくなったとき、周りに不登校している人が誰もいなくて、僕は将来、生きていけないんじゃないかという、ものすごい不安がありました。シューレは親が見つけてきてくれたのですが、不登校は悪いことだと思っていたので「そんな、不登校の子の行く所には行きたくない」とシューレ拒否をしていました。ある日、本当に自分からふっと「行ってみようかな」と思うようになって、それからもう6年になります。

シューレに来て初めて、基本は「人と人」だと思いました。子どもどうしても子どもとスタッフでも、みんな肩書きでなく、その人の個性とつき合っている関係です。それから、何かを学ぶ時、将来の役に立つから学びたいというのではなく、興味とか欲求から出てくるのがいいと思います。シューレではそういう希望を、ミーティングで出して、活動のプログラムを決めていきます。

石井志昂（17歳）：自分が中学に入学した時、すでに制服の事など細かく校則が決められていて、おかしいと思いました。また、教師のやり方に納得できなくても生徒は言えないし、お互いが



お茶を飲みながらグループで話し合い

監視しあうような雰囲気もイヤでした。

東京シューレではミーティングを開いて、決まりごと自分たちで決めます。それは自由でもあるけど、責任も一緒に考えることです。学校で、自分たちのことを自分たちで決めないのに責任だけ持たされるのはおかしいと思います。また、僕は学校で「子どもの権利条約」があることを教わりませんでした。自分のことを自分で決めていいと知っていたら、もしもその子が学校に行かなくても、罪悪感を感じなくてすむと思います。

坂本ゆい（15歳）：私は小1の時からずっと本当の自分をみんなに出せなくて、いつも自分を変えたいと思っていました。中学になっても小学校の友だちと一緒に上がるので本当に苦しくなって、学校に行かなくなりました。子どもが書いた本を見てシューレを知って、「ここなら自分を出せるかも」と思いました。

このあいだ、シューレ始まって以来初めての運動会をやりました。ミーティングで運動会をやりたい人を募ったら、小学生の子から高等部年齢の人まで実行委員になってくれて、いろんな人がアイデアを出し合って、勝敗に関係なく、みんなが楽しめる運動会になりました。

米田有里（15歳）：いま中3ですが、小学3年生から先生と生徒の関係とか、友だちの中でのグループ化がイヤになって、さみだれ登校をしているうちに学校に行かなくなりました。シューレに来てから、自分自身のことがわかるようになりました。自分の言っていること、自分って何？ 何

## 「喫茶シューレ」

がしたいの?など、学校にいる間は、考えるゆとりがありませんでした。シューレでは、いろんなプログラムがあって、そのひとつひとつに出る・出ないも自分で決めて良く、私はプログラムにあまり出ないで、シューレのいろんな人とおしゃべりするなかで得るものが多かったです。

学校に対して一番思うことは、子どもが得られる、子どもにとっての正しい情報が少ないということです。私は、先に兄が登校拒否をしていたので「学校に行かなくてもいい」ことを、たまたま知っていましたが、それは、学校の中で教えてもらったことではありません。自分にとって正しい情報を得られる権利は、大事です。

**渡邊広史**（18歳）：僕は小5の時、学校にシール表があって休み時間にも中学受験のために勉強する雰囲気や勉強が嫌いで、腹痛や頭痛が起こるようになり、行けなくなりました。親もわかってくれなくて4年半ほど家に閉じこもっていました。

シューレに通うようになって、「フリースクールって、不登校の子が行く所」と思っていました。でも、去年の夏にウクライナで開かれた「世界フリースクール大会」に初めて参加して、考え方が大きく変わりました。海外のフリースクールの中には、政治的なことや宗教が絡んでいたりして、色々あることがわかったのです。それで、今年イギリスのサマーヒルでの大会に参加してきて、来年は日本でこの大会を開くことを約束して帰ってきました。来年の夏、国内外の子ども主体のやり方について話し合い、いろんな人たちと交流できるのが楽しみです。

「子どもの権利」について思うのは、僕は6歳の時「君は学校へ行く?どうする?」と聞かれることはなく、当たり前のようにじいさんがランドセルを買ってくれました。たった6歳でも、「地域の学校もあるけど、違う学校も選べる。フリースクールもあるし、家でやっていく方法もあるよ」と言われれば、その子なりの判断はできると思います。子どもがどこで学べるかを選べるのは、そ

の子が「学んでいこう」という気持ちとつながると思います。

**信田風馬**（17歳）：僕は、小さい頃から幼稚園や小学校が嫌いでした。中学になって学校の規模が大きくなったときに気後れして、学校に行けなくなりました。親は最初、全然理解できなくて泣かれてしまい、僕の中には罪悪感がずっとありました。仮病を使うなどして行かなくなってしばらくしたら、親が「行かなくてもいいよ」と言ってくれて、気分が楽になりました。

ここまでのみんなの話から、シューレでは、自分たちの興味から色んな活動が広がっているのがわかると思います。同じように、例えば1日中マンガを読んだり、ゲームをひたすらやってもいいんです。悩みがあってもホッと帰れる。そういう所もいいと思います。

※これらの発言のあと、「将来に不安は?」などの質問や、会場参加の親の方から「皆さんの言葉は勉強になった」「頭では不登校を理解しているつもりだったが、2ヶ月前、いざ自分の子どもが行かなくなって問い返された」などの意見が出され、午後の喫茶シューレの時間に引き継がれることになりました。

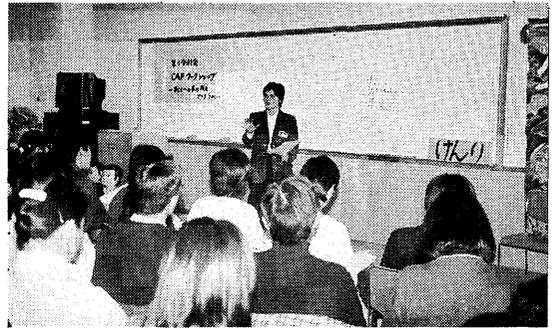
（記録：花井紀子）

# 「CAPプログラム」

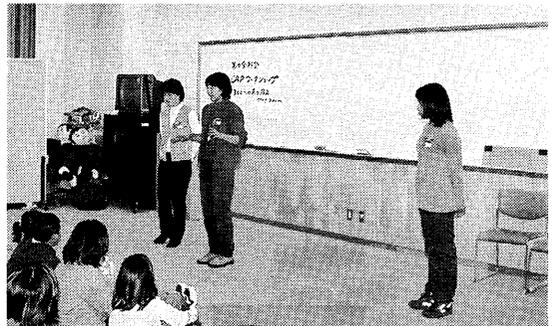
—子どもへの暴力防止のためのワークショップ—

<企画運営団体：グループCAP>

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 講師（講演・就学前） | 安藤 由紀さん<br>グループCAP |
| 講師（講演）     | 江口美代子さん<br>グループCAP |
| 講師（就学前P）   | 荒川美智代さん<br>グループCAP |
| 講師（小学生P）   | 門馬 乙魅さん<br>グループCAP |
| 講師（小学生P）   | 島村 麗子さん<br>グループCAP |
| 講師（小学生P）   | 佐々木正子さん<br>グループCAP |
| 講師（講演）     | 佐野 育子さん<br>グループCAP |
| 司会         | 三浦真津美さん<br>グループCAP |



大人のための講演



子ども対象のワークショップ

CAP (Child Assault Prevention)は、アメリカで開発された子どもへの暴力防止プログラムです。だれもが生まれながらにもっている基本的人権を「安心・自信・自由」という表現におきかえ、権利が奪われそうになったときは「いやだ」といってもいいのだと言うこと、いやと言えなくても逃げて身をかわすことができること、信頼できる人に相談することができることを、役割劇を使いながら参加者との対話形式で考えていくワークショップです。

今回の分科会では、グループCAPのスタッフが3本のワークショップを行いました。

午前中は、大人のための講演（後援者＝江口美代子）、子どもプログラムの紹介はもちろんのこと、虐待の知識など大人として知っておいたほうがよい情報や、虐待を受けた子どもの心理状態、クライシスカウンセリングによる子どもへのサポートの仕方などを伝えました。保護者や教育関係者を中心に50名以上もの方々が参加してくださ

り、皆さんが講演者の具体的な話に集中して聴き入っている姿が印象的でした。

午後は、就学前プログラム（講演者＝安藤由紀、荒川美智代）と小学生プログラム（門馬乙魅、島村麗子、佐々木正子）を子どもたちに体験してもらいました。

就学前のプログラムは、幼児でも怖がることなく理解できるように身長110センチのお人形を5体使って劇をします。初めは不安そうだった子どもたちも、自分と同じくらいの背丈のお人形の登場で盛り上がってくれました。

最後の小学生対象のワークは、私たちが小学校や児童館に出向いて届けている最もリクエストの多いプログラムです。今回は模擬ワークショップということで学校も学年も違う子どもたちが集まりましたが、ロールプレイや特別な叫び声の練習にも積極的に参加してもらい、楽しいワークショップで締めくくることができました。

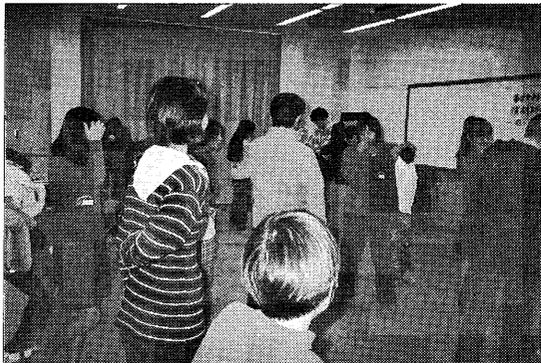
（記録：三浦真津美）

# 「演劇的ワークショップ」

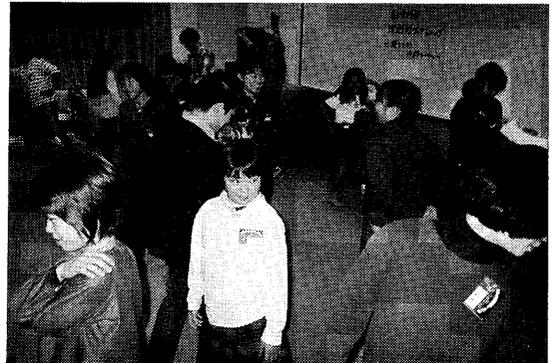
ー遊びながら演劇づくりへー

<企画運営団体：劇団風の子東京>

講師 福島 康 さん 劇団風の子東京



みんなで体を動かす



動物遊び？

人間としての基本的な権利。心と体を解放することで、自分を自由に表現する権利があることに少しでも気づいてもらいたいと企画した演劇的ワークショップは、クツを脱いでほだしになることからはじまりました。決して十分な広さとはいえない空間に、26名の参加でした。

10：00からはじまり、11：00ごろまではバラバラと入場者がいたので、途中から参加という人もいましたが、午前中はそれぞれ体ほぐしと心ほぐし、午後は、グループにわかれて劇づくりに取り組みました。

最初は、まず体の力を抜くこと。普段頑張っている人たちは、力を抜くことを忘れていたようでした。何でもないことのはずなのに、力を入れるより難しかったようです。力の抜き方がわかったら今度は入れ方。こちらはみんな、すぐできたようです。二人組になって相手と同じ動きをするカガミ遊び。ねこになったり、にわとりになったりする動物あそび、などなど、力を抜いたり

入れたりすることでいろいろな遊びを体験し、心も体もリラックスして昼食タイムにはいりました。

そして午後。3つのグループに分かれて話し合いが始まりました。朝には他人だった人たちが、すっかりうちとけていきいきと相談しています。発表の時間2：30には、どれも個性的で楽しい3作品。「鈴木家の食卓」「かわいそうなどろぼう」「こぶとりももたろう」ができあがっていました。みんな自分のグループの作品が一番だと思っていたのに、どの作品も楽しかったので大いに盛り上がりました。演じる人も観る人も本当にひとつになってすてきな空間を感じる事ができたのではないかと思います。

私も一緒に動いていたらもう少しましな文章が書けたのではないかなと思うのですが――。

参加者の感想の一部を紹介して報告とさせていただきます。

# 「演劇的ワークショップ」

## 参加者の感想

\*最近、頭で考えることが多く、なんだかこわばったような感じがしていました。カチカチになっていた心と体が少し柔らかくなったようです。いろいろな年代の人たちと楽しい時間を持てました。ありがとうございました。(39才・女)

\*劇作りをしたのが楽しかった。「子どもの権利条約フォーラム」にははじめてきたけど「こんなに楽しかったんなら、前のフォーラムにも行けばよかった」と思っている。(12才・女)

\*今日ここへ来てよかったと思っています。午後が一番楽しかったです。友達もできたし、一人一人のふれあいも深まったと思いました。またここへ来たいと思いました。(12才・女)

\*話だけの分科会だと思っていました。…と思いきや、「クツを脱いで入って下さい」といわれたときから何か違うと気づいた。おもしろいというか、学べたというか、これによって想像・創造が強まったような気がする。とても短時間に思えました。(20才・男)

\*今回でわかったのは同じものでも人によって、そのものの表現のしかたや、うけとめ方が違うことなどです。いろんなことが吸収できたと思います。おもしろかった。(中2・男)

\*さいしょここに入る時、かなりきんちょうしたけど、いろいろやっているうちに楽しくなってきた、いろいろやっているうちに楽しくなってきた、ここに来てよかったと思った。とくにげきがおもしろくて楽しかった。(6年・女)

\*午前中に頭の中も体も体操をしたので、午後の劇づくりは、たのしく、かながえず、あまり悩まずにできました。「自分たちの劇が一番おもしろいな」と、発表するまでは思っていたのですが、3グループとも全部おもしろかったです。特に3



グループで劇づくり



グループで劇づくり

つともぜんぜんちがうつくり方で、どれも「へー、こんなアイデアもあるのか」とおどろきました。(31才・男)

\*身体力を抜くことが難しいと思いました。恥ずかしさとか、こんなことをいったらおかしいのではないかという気持ちをなくしていくことも、気持ちの力をぬくことになるのかと思います。これも難しい。子ども人権フォーラムの分科会なので、そことのつながり、意味など、関連してお話があってもいいかなあと思いました。(41才・女)

もっとたくさん書いていただいたのですが、省略させていただきました。皆さん、お疲れさまでした。また会いましょう!!

(記録：宮原登志子)

# 「子どもの権利条約入門講座ワークショップ」

＜企画運営団体：国際子ども権利センター＞

講師 浜田 進士さん  
国際子ども権利センター副代表



条約入門講座のようす

「権利、権利ってそんな主張をする前に義務を果たさないか?」「子どもの権利ってわがままさせることなの?」「条約って、かわいそうな子どものためにできたんじゃないの?」

この分科会は、権利条約に対するこんな疑問をわかりやすく学ぶワークショップ形式で行われました。講師は条約ワークショップのベテラン、浜田さん。ジャンケンをしたり、写真を見たり、自己紹介をしたり、カードを使いながら、楽しみな

がら子どもの権利について考えました。参加者は子どもだけでなく、若者もおとなもいっしょに学びました。浜田さんの愉快的関西弁の語り口で、楽しいけど気がついたらいろんなこと学んでいた、そんな講座だったと思います。

とくに、子どもの権利条約を基本から知りたい人や、子どもの権利条約をわかりやすく伝える方法を学びたい人にはぴったりの講座だと思いました。

## 第10分科会

# 「ラウンドテーブル・トーク」

—子どもの問題、今の課題を話し合う—

＜企画運営団体：子どもの虐待防止センター＞

コメンテーター 辻野 恵子さん  
子どもの虐待防止センター  
コメンテーター 小宮山健治さん  
川崎市教育委員会  
司会 荒牧 重人さん  
子どもの権利条約ネットワーク事務局長



ラウンドテーブルで話し合い

この分科会では、子どもたちをとりまく様々な課題、問題を、ゲスト、参加者で自由に話し合いました。

最初に、今日的課題として、特にふたつの問題を取り上げ、それぞれ専門のコメンテーターから問題提起をしていただきました。ひとつは、虐待の問題で、最近特に、親による子どもへの虐待が急増し、深刻な社会問題を引き起こしています。日本では、最も初期からこの問題に取り組んでき

た虐待防止センターから辻野さんに来ていただいて、コメントをいただきました。

もうひとつは、日本で初めて、子どもの権利保障のための条例づくりに取り組んでいる川崎市から推進役のおひとり、小宮山さんから条例についての詳しい説明をいただきました。後半は、このおふたりのコメンテーターをかこんで、子どもたちのいまとこれからについて話し合いを持ちました。

## 子どもの権利条約フォーラム99参加者アンケート結果から

たくさんのボランティアスタッフが協力



質問1 オープニングの参加団体からのメッセージはいかがでしたか？

- ・アットホームでよかったです ①
- ・自己紹介とかを聞いてけっこうふつうに話せそうで、その後の気持ちが楽でした ①
- ・人形をつかった人の声がきこえにくかった ③
- ・いろんな団体がわかりやすくてよかったと思う ①
- ・友達がまたふえた！ ①

質問2 オープニングの合唱組曲「ボクたちのさがしもの」はいかがでしたか？

- ・楽しめました ②
- ・感動しました ①
- ・みんなでつくった歌、かっこいいと思った ①
- ・とても自然でメッセージが伝わってきました ①
- ・短い時間で自己表現するのは大変だな、と感じました ③
- ・合唱、何回も練習したのですが、なかなかよかったです ②
- ・組曲ができあがり、発表にいくまでのプロセス、もうちょっと聞きたかった ②
- ・声の重なり、言葉の重なりが、連れて行った娘には少しわかりづらかった ②
- ・歌詞がわかりやすく、とてもいい歌だと思いました ①
- ・みんなガンバッテいるのがよくわかる ②

質問3 シンポジウム「子どものSOSを受けとめて」はいかがでしたか？

- ・型にはまりきった役人と、具体的な民間の方との対比がとても面白かった ②
- ・子どもの権利をどう捉えるか、もっともっと大人の側とか国、都のレベルからもきちんと認識し、広めていかないとこの日本では何も進んでいかないと思いました。この子どもたちの現状から私たち大人はもっともっと考えなきゃいけないと思います ②
- ・議論、議題にまとまりがなかったかもしれません ②
- ・子どもの人権侵害は、大人自身が変化していかなければならないと思う ③
- ・パネリスト山田牧子さんの話をもっとききたかった ②
- ・女性二人の発言が興味深く、明快で、共感するところも多く、参加意識が高められた。さらに丁寧に深い話がしたいという心残りは翌日につなげます ②
- ・パネリストの方はもち時間を守ってほしい。山田さんのお話をもっとききたかった。
- ・行政、民間のありようの線引き、組み分けがムツカシイ ②
- ・文部省の竹下さんに、子どもが人権侵害に気づくためには権利について知っていなければなりません。子ども一人ひとりに、市民参加でリーフレットを作り、配布してください、とお伝えしたい ①
- ・質疑応答が充実していてよかったです ②
- ・オープニングが世界からの人々が集まっていた国際的な雰囲気だったのに対し、シンポジウムは日本に偏りすぎていたのでは…？内容が期待していたものと違っていた。(私は発展途上国における児童労働の問題などの話を聞きたかったので…)日本では「育」という視点で発展途上国とは別の形で子どもの権利が侵されているということに気づいたのはよかったと思う
- ・民間の方の発言、とくに山田牧子さんの発言など参考になった(星野さんも)。文部省の生涯

# 子どもの権利条約フォーラム99参加者アンケート結果から

学習局から来られたのは大進歩だが、できれば、子どもの権利条約、児童に関する条約の担当の課や、義務教育の担当の局に来てほしかった  
②

- ・司会とシンポジストの方々のバランス感覚が優れていました。いま少し、会場の協力も欲しいところ。時間はもう少し欲しい。 ②
- ・子ども相談活動はなかなか難しいのだなと思いました。民間・行政の連携が重要だと思います。
- ・文部省義務教育課（学校関係）の話を聞きたかった ①
- ・もっと討論の時間が欲しかったです ①
- ・椅子が足りなかった
- ・やはり時間が足りない ②

## 質問4 子どもアクション広場はいかがでしたか？

- ・シンポジウムに結局出てしまったのでちょっとのぞいただけでしたが、うらやましかったです。何らかの形で全参加者へのフィードバックが欲しいのですが、ありますか？ ②
- ・子どもが主体で組み立てたということが良くわかる企画になっていたと思う。とてもおもしろかった。いきいきとした子どもたちへ…カンバイ!! ①
- ・ただ遊ぶだけならシンポジウムに出ればよかった ⑤
- ・全然知らない人と交流できて、すごくたのしかったです ②
- ・たくさんの人と交流できてよかった。でももっと多くの人と交流もできたらいいなあ ②
- ・もっといろいろな人と交流ができるように ④
- ・各地によってやるのがちがうのが印象的 ①

## 質問5 展示コーナー、情報コーナーなどいかがでしたか？

- ・もっと広い場所で ③
- ・いろいろあってよかった ②
- ・Free（無料）の情報もありよかった ②
- ・スペースの関係はわかるのですが、もっとゆっ

たりしたスペースがほしかったと思います。とても残念ですが。 ④

- ・狭くて残念 ④
- ・シンポジウム時に展示・受付・書籍スタッフの声が少し大きかったように思います ②
- ・どの団体も工夫を凝らした展示でとてもよかった ①
- ・もう少し広いところがあるとよい。オープニングの会場とは別にあるとよい。（わざわざ歩いて落ち着かなかった）②
- ・たくさんあって、すごくよかった ②

## その他

- ・実行委員会にお願い。実は11/27、28は私の知っているだけでも全国レベルの集会在3つあります。「子どもを守る文化会議」「地球市民フォーラム」と当会、多分、ほかの参加者もダブって参加したい人は多いと思います。27日はこちらに、28日は「子どもを守る…」へと何とか調整はできないものでしょうか。ぜひご検討ください。
- ・スタッフの皆様、本当のご苦勞様でした。ありがとうございました。来年もまた楽しみにしています。



テレビ局の取材もありました

## フォーラム99に賛同された皆さんからのメッセージ(一部)

◆東京都 Mさん

運動の推進にむけて、NGO等の活動が必要だ  
と思います。活動の呼びかけに賛同いたします。

◆高崎市 Tさん

家庭と会社、学校以外の第3の居場所。ともに  
いろいろな立場の人と共生できる場を作りたい  
と思っています。会に参加させていただき、いろ  
いろ吸収していきたいと思います。

◆神奈川県 Tさん

子どもたちのために戦争をなくそう!!

◆東京都 Oさん

最近の子どもは何を考えているかわからないと  
か、すぐ切れるとか、大人が子どもと楽しく暮  
らそうというより、不信の目でみる風潮があるの  
が、おかしいですね。

子どもを一人の人間として、尊重する社会、いろ  
んな子が安心して生きていける社会づくり  
を多くの人の輪でつくっていききたいですね。

◆横浜市 Yさん

世界中の子どもが平和で健康に生きられますよ  
う、願い行動するばかりです。

◆東京都 Kさん

子どもたちの声をもっと大きく大人に伝えよ  
う。子どもたちの権利を守り、しっかり育ってい  
けるように、盛会をお祈りします。

◆国立市 Mさん

子どもの権利条約を実質化するためには人々が  
手をつなぐ必要があります。フォーラムの成功  
をお祈りしております。

◆川崎市 Sさん

子どもの権利条約、画に描いた餅にしない、そ  
のための努力を!

◆東京都 Kさん

子どもたちの最善の利益をしっかりと守るため  
に、“子どもの権利”への理解を深め、実践する  
ためにともに力を尽くしていきたいと思っていま  
す。

◆仙台市 Kさん

当日、所用のため出席できませんが、ご盛会を  
お祈りいたします。

◆東京都 Tさん

いつも応援しています。だんだん私の口から  
「子どもの権利」、あるいは「子どもの視点」、  
「子どもの参加」という言葉が発せられるよう  
になってきました。今回は積極的にフォーラムの  
声かけを協力します。

◆北海道 Wさん

準備ご苦労さまです。成功を祈っています。

◆大阪市 協議会

よい行事となりますよう、応援いたします。

◆東京都 Yさん

私が初めてこのフォーラムに参加したのは4年  
前。私が中2の時だったと思います。初めて、  
たった1人で参加下なのですが、同世代の子の活動  
報告などを聞き、深い感銘を受けた覚えがあ  
ります。今年は、海外の子ども達も参加するとい  
うことで、(英語なら話せるので)ぜひ参加  
して交流したいと思っていたのですが、28日が大学  
入試日にあたるので、残念ながら、両日共に参  
加できそうにありません。参加はできませんが、  
子どもの権利条約をより多くの人に知  
って欲しいという気持ちは同じです。ぜひ今年もすばらし  
いフォーラムになるよう成功を祈  
っています。

## 賛 同 団 体

- ARC  
CAPかながわ  
CHILDREN'S EXPRESS  
DCI日本支部  
JEC(Joyful English Club)  
LET'S国際ボランティア交流会  
MFジャパン  
NGO福岡ネットワーク  
WOMEN'S MESSAGES  
アーユス 仏教国際協力ネットワーク  
アムネスティインターナショナル日本支部  
アムネスティ川崎グループ  
かわにし子どもの人権フォーラム実行委員会  
グループ CAP  
こどものくに保育園  
たまりば  
チャイルドライン支援センター  
ともしび  
ながさき国際理解教育センター  
ハイスクールフェスティバルin埼玉OB・OG会  
開発教育協議会  
学校災害から子どもを守る全国連合会  
茅ヶ崎子どもサポートネット  
関西NGO情報センター市民の集い  
関西国際交流団体協議会  
空・山・川総合研究所  
社団法人 神奈川人権センター  
社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
社団法人 アジア協会アジア友の会  
社団法人 子ども情報研究センター  
社団法人 神奈川人権センター  
社団法人 部落解放・人権研究所  
社団法人 日本小児科学会  
社団法人 シャンティ国際ボランティア会SVA  
水戸・子どものための市民オンブズパースンの会  
全国児童擁護問題研究会  
多野藤岡子ども劇場  
大阪高校生平和ゼミナール  
地域の国際交流を進める南河内の会  
登校拒否を考える全国ネットワーク  
子どもの権利をすすめる町田の会
- 劇団 風の子  
劇団たんぽぽ  
劇団風の子東京  
行政書士入管手続研究会  
国際子ども権利センター  
財団法人 とよなか国際交流協会  
財団法人 神戸学生・青年センター  
財団法人 日本YMCA同盟  
財団法人 箕面市国際交流協会  
子どもサポートネット・埼玉  
子どもと教科書全国ネット21  
子どものための市民オンブズパースンの会  
「子どもの権利条約」熊本の会  
子どもの人権埼玉ネット  
子どもの人権連  
子ども虐待防止センター  
子ども劇場茨城  
子ども劇場全国センター  
児童図書館研究会  
東京・生活者ネットワーク  
東京シューレ  
日本キリスト教協議会教育部  
日本子どもを守る会  
日本児童・青少年演劇劇団協議会  
部落解放・人権研究所  
部落解放共闘福岡県民会議  
部落解放同盟広島県連合会  
福岡・社会教育研究会  
福岡県教職員組合  
福教組 筑紫支部  
民族教育促進協議会  
目黒・生活者ネットワーク  
練馬生活者ネットワーク  
筑紫労働センター  
杉並生活者ネットワーク子ども部会  
世田谷こどもいのちのネットワーク  
川崎子どもの権利条例子ども委員会  
全国高等学校教育法研究会  
日本小児保健協会  
日本青年奉仕協会

## 協 賛 団 体 (6団体)

あかね書房  
北樹社

ポプラ社  
エイデル研究所

日本評論社  
三省堂

賛 同 個 人

相川 裕  
赤池 悦  
味岡 尚  
安部 芳  
天野 利  
網野 理  
新井 雅  
荒木 重  
荒地 芽  
池田 洋  
池田 千  
石川 登  
石場 勇  
石場 民  
伊集院 隆  
稲井 宣  
一番 志  
岩上 泰  
岩崎 桂  
岩崎 長  
上原 み  
内田 登  
梅津 塔  
漆畑 典  
江田 榮  
大井 佳  
大河内 雅  
大島 秀  
大野 三  
大野 も  
大橋 正  
大岡 淑  
小川 輝  
小野寺 慶  
小壽岳 章  
片野 令  
門田 昌  
鎌倉 見  
上村 淑  
菅源 德  
菅 太  
喜多 明

北喜 洋  
北野 由  
喜村 希  
北村 真  
木工 真  
工藤 惠  
藏原 信  
小小 清  
小小 祥  
小小 真  
小小 真  
小小 由  
小宮 健  
小宮 真  
小近 藤  
斎藤 和  
斎藤 紀  
斎藤 雅  
斎藤 義  
酒坂 信  
佐久 美  
佐々 久  
佐々 美  
佐々 光  
佐々 真  
佐々 健  
柴崎 雅  
柴田 慎  
白鈴木 祥  
鈴鈴木 敏  
鈴鈴木 は  
鈴鈴木 つ  
鈴鈴木 め  
須田 芳  
須永 倫  
関根 玲  
瀬戸 則  
田家 文  
高石 友  
田川 英  
武智 多

多田 元  
田中 誠  
谷内 文  
塚原 彩  
津田 玄  
土師 智  
土田 智  
堤井 知  
坪留 節  
都久 久  
東島 浩  
戸田 真  
戸沢 理  
富田 由  
豊田 紀  
内藤 七  
永川 一  
中川 喜  
中田 朋  
中村 叔  
中村 勝  
中村 高  
中村 安  
永倉 憲  
新田 和  
西岸 善  
根野 協  
羽谷 川  
八田 幾  
八田 久  
濱田 美  
濱田 道  
濱野 光  
林卓 也  
菱由 利  
平野 康  
藤井 健  
藤木 一  
藤木 武  
藤木 円

藤本 昌  
前野 祐  
牧野 育  
松倉 直  
松田 聡  
松原 ま  
松本 ゆ  
丸本 め  
三井 静  
峰岸 赫  
宮崎 葉  
宮下 和  
宮輪 順  
三村 敏  
村井 呂  
村河 知  
毛利 子  
百森 昭  
守矢 洋  
矢山 ち  
山内 久  
山山 順  
山山 喜  
山山 由  
山田 綾  
山根 牧  
山本 万  
山本 理  
山吉 喜  
吉田 常  
吉田 か  
吉田 恒  
吉好 理  
和田 省  
和真 雅  
多田 雅  
渡邊 美

士子 三子  
史史 史史  
みみ みみ  
香香 香香  
明明 明明  
子子 子子  
彦彦 彦彦  
子子 子子  
寛寛 寛寛  
邦邦 邦邦  
里里 里里  
哉哉 哉哉  
来来 来来  
雄雄 雄雄  
子子 子子  
泰泰 泰泰  
子子 子子  
洋洋 洋洋  
司司 司司  
仁仁 仁仁  
子子 子子  
子子 子子  
里里 里里  
子子 子子  
惠惠 惠惠  
枝枝 枝枝  
雄雄 雄雄  
かか おお  
恒恒 恒恒  
理理 理理  
省省 省省  
真真 真真  
雅雅 雅雅  
美美 美美

27日夜の交流会で



27日夜の交流会で

27日夜の交流会で



今回の子どもの権利条約フォーラムは、いくつかの点で、節目の年にふさわしいフォーラムとなったのではないかと、関係者のひとりとして少し誇りに思っています。

まず、分科会の各企画を、それぞれの分野で活動実績を積んできた団体に運営してもらった点です。おなじ子どもの権利保障の実現のために活動してきているのに、これまで一堂に会する機会がなかったので、それぞれがどんなやり方をしているのか、互いによい刺激になったと思います。

また、今回はアメリカやフィリピンからゲストの子どもたちが参加してくれました。日本の子どもたちとの交流も本格的なものになり、2000年の夏には今度は、日本の子どもたちが研修のために渡米する形で、この交流が発展しています。

シンポジウムでは、今回はじめて国、自治体、民間が同じテーブルで話し合いをもつことができました。今後は、互いがパートナーとして、子どもの権利保障にむけ協力し合える関係を築いていけたら素晴らしいと思います。

今回のフォーラムでは、内容面だけでなく運営

面でも画期的と思われることがいくつもありました。

フォーラムの実行委員会に多くの子どもメンバーが参加し、子どもアクション広場をはじめ、いくつかの分科会で実質的な企画、運営の責任担当を果たしてくれました。おとなのスタッフとたがいによりきパートナーであることが実現できたと思います。

もうひとつ、今回のフォーラムには40人以上の学生や若者を中心としたボランティアスタッフが協力してくれました。準備や受付、販売や会場係、託児所係りや通訳などさまざまな事務運営を分担してくれました。なかには、フォーラムのチラシを見て、申し出てきてくれた方もいらっしゃいました。

最後に、フォーラム'99、2日間の参加者数ですが、ゲストやスタッフを含めると延べ750に達し、過去最高の参加者数となりました。

こうしたエネルギーをさらに、子どもの権利実現に結びつけて行かなければと思います。

フォーラム'99事務局長



最後の全体会で報告

全体会の参加者



託児所で、スタッフと子どもたち

今日の教育改革立法をふまえた唯一・最新の  
〔本格的〕な教育法規の総合的事典が完成！

# 教育法規新事典

編集代表 神田 修・兼子 仁 四六版 定価二五〇〇円

## 本書典の特色

- \*中教審答申など今日の教育改革や、「地方分権一括法」など行政改革の動向をふまえ、立体的・重層的編集のもとに新たな解説を加えた21世紀の教育法規の総合的・本格的な解説事典となった。
- \*生きて動く教育法制の全体が理解できるよう、教育法学の体系的な枠組みをもとにもれなく重要教育法(規)用語を収録。教育法学、教育法学の最新の研究成果のすべてを織り込み客観的に編集した。
- \*手に取りやすく、利用しやすい索引つき、"ハンディな事典"の形をとりつつ、基本用語、事項の客観的、正確な記述となっている。

平原春好・神田 修編著 二二〇〇円  
ホーンブック教育行政学

監修 山田定市・編集 鈴木敏正 二四〇〇円〜二六〇〇円  
講座 主体形成の社会教育学・全四巻

中谷 彪・浪本勝年編著 二二〇〇円  
現代の教育学を考える

中谷 彪著 二四〇〇円  
日本の学校経営学「日暮観」にみる学校経営の真髄

伊藤良高著 二二〇〇円  
現代保育所経営論 保育自治の探究

宮下一博・濱口佳和編著 二二〇〇円  
教育現場に根ざした生徒指導

橋元良明・船津 衛編 一七〇〇円  
子ども・コミュニケーション 情報環境と  
青少年と コミュニケーション 社会心理 3

## 北 樹 出 版

●価格には消費税が含まれていません。TEL (03) 3715-1525  
●東京都目黒区中目黒 1-2-6 〒153-0061 FAX (03) 5720-1488

# 提言「子どもの権利」 基本法と条例

日本教育法学会子どもの権利条約研究特別委員会編  
2,730円(本体2,600円)  
子どもの権利条約の国内実施を具体化するために、基本法制定と自治体条例制度を提言。

# 在学契約上の権利と 義務

「個人の尊重」を中心にする  
中野進著 2,100円(本体2,000円)  
学校現場でおこるさまざまな事例を素材に、「在学契約」の観点から問題を整理して考察。

# 教育学と 子どもの人権

兼子仁教授東京都立大学退官記念論文集  
市川須美子・安達和志・青木宏治編 3,150円(本体3,000円)  
気鋭の若手研究者11名が教育の現実を改革するための問題を提起する。

# 三省堂新六法 2000 平成12年版

永井憲一・浅倉むつ子・安達和志・井田良・柴田和史・広渡清吾・水島朝穂編  
1,470円(本体1,400円)  
本年度で大改訂、紙面刷新。ますます充実した学生・市民のための小型六法。現代社会の動きに対応して幅広く法令を収録。

三省堂 ☎101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9412(営業)

「子どもの権利条約」は、  
子どものための世界の約束!

★まんがで学ぼういろんな知識★

まんがで学習  
シリーズ

よくわかる「子どもの権利条約」事典

喜多明人・文 内田玉男・画

「子どもの権利条約」は、子どもの権利を守るためにつくられた、世界中の国と国との約束です。日本も、1994年4月に条約に加わりました。この本は、身近な子どもの生活の中から、子どもの権利にかかわるテーマを、まんがと文章でわかりやすくまとめたものです。

●定価(本体1,165円+税)

好評発売中!!



「よくわかる「子どもの権利条約」事典」は、子どもの権利条約の基礎知識を、身近な子どもの生活の中から、わかりやすくまとめたものです。

あかね書房

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 TEL.03-3263-0641 FAX.03-3263-5440

季刊 子どもの権利条約

No.6

『季刊子どもの権利条約』編集委員会  
編集代表 喜多明人

国連採択10周年記念号

<http://www.eidell.co.jp/pub/kenri/>  
B5判・136頁・税込定価1600円  
エイデル研究所刊・発行月8/11/2/5

☆使おう!!子どもの権利条約☆

国内編

条約10周年なにを変えたのか

子ども/学校/子ども施設/司法/自治体  
/国/地域NGO/国際協力NGO/マスコミ

「子どもとおとな」どう変えたか  
「子どものケア・救済」どう変えたか  
「子ども施設」どう変えたか

国際編

国際社会はどう動いたか

世界の法改正等の動き

子どもの意見表明・参加権/性的虐待・搾取  
/子どもの権利法/子どもオンブズパーソン

Q&A 条約の基礎知識/条約を活かす

エイデル研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-11 TEL 03-3234-4641 FAX 03-3234-4644

# 子どもの権利条約フォーラム'99東京報告書

---

2000年10月

〔編集・発行〕子どもの権利条約フォーラム'99実行委員会

〔連絡先〕子どもの権利条約ネットワーク

〒105-0022 東京都港区海岸1-6-1-831

TEL 03-3433-7990 FAX 03-3433-7369